

不易と流行

保護者のみなさま、地域のみなさま、新年あけましておめでとうございます。穏やかに新年を迎えられたことと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、子どもたちは冬休みの間それぞれのご家庭でどのように過ごしたのでしょうか？ 私は、大阪市淀川区で生まれ育ちました。周りには家が建ち並び、駅前から続く全長7～800メートルほどの商店街には店がたくさんあって、年末は活気にあふれていました。同じ町内に母親の実家があり、年末には母はそこに行っておせち料理を作っていました。残された家族は家の大掃除です。我が家だけでなく掃除をしている家があちらこちらにあり、お互いに助け合いながら掃除をした記憶があります。

私は時々、生まれ育った町に行くことがありますが、商店街のアーケードはありますが店の数は減り、かつてのような賑わいもあまり見られなくなっていました。また、駅前にあった工場がなくなり、跡地にマンションが何棟も建っていたり、大きなスーパーマーケットができていたり、町の様子もずいぶんと様変わりしています。

このような変化の中、子どもたちの冬休みの過ごし方も変わってきているのではないかと思います。今の我が家ではおせち料理は外注、掃除はしますが大掃除とまではいきません。家族みんなで初詣にでかけることは少なくなり、正月にカルタや書初めもしなくなりました。近くの公園は狭く、凧揚げを楽しんでいる親子も見なくなりました。年賀状のやり取りも年々少なくなっています。正月だからと、着物を着ることもありません。駅に近いスーパーマーケットは元日から開いていていつでも買い物ができる、飲食店も営業しているところがあり、おせち料理に飽きたら外食もできる。こんな状況です。なので、私が幼い頃はずいぶんと豊かな体験をしていたんだなあと思います。お正月を挟んだ冬休みに昔から受け継がれてきた風習をたくさん経験してきたんだなあと思います。

西谷ではお正月を挟んだ冬休みをどのように過ごされているのでしょうか？ 西谷もかつてと違い様変わりしてきていると思いますが、私が生まれ育った町や今住んでいる町と違い、まだまだ古くから続く習わしがたくさん残っているのではないかと思います。そのような中で過ごす子どもたちは、とても豊かな体験をし、時代が変わっても失ってはならないものをたくさん持っているといます。

「不易と流行」という言葉がありますが、学校も時代によって変わるところ（流行）を取り入れつつ、これまでどおり変えてはいけないもの（不易）を大切にしながら進んでいきたいと思っています。

